



処方箋の「QRコード」と「かかりつけ連携手帳」について

病院経営管理部長 佐藤 弥

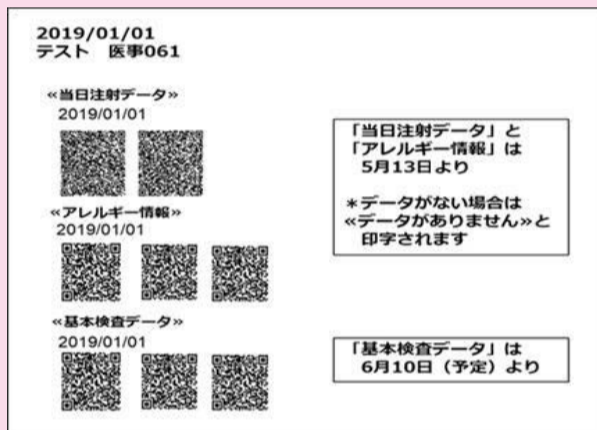
令和元年5月13日より、本院の処方箋に、処方内容のQRコードが付加されています。このQRコードは、処方箋の処方内容を表したもので、調剤薬局での調剤時間の短縮が期待できます。お薬をいただいた後は、これまでの「シール」ではなく、このQRコードまたは調剤薬局からの新たなQRコードをぜひ入手してください。

これら以外に、当日実施(予定)の注射情報、電子カルテに記載されたアレルギー情報、さらに6月10日(月)からは、基本検査データ(通常の健康診断結果程度、32項目以内、5週間以内の最新データのみ)も、処方箋に付加されて提供いたします。これらのデータは、皆さんの持つ「スマートフォン」に、無料でダウンロードできる「かかりつけ連携手帳」アプリで、すべてを読み保存できます。高齢者や乳幼児・小学生等で、スマートフォンを持たない方のデータは、介護者や父母等のもつスマートフォンに、同時に保存することができます。

当日の注射情報、アレルギー情報、基本検査データを保存するためには、「かかりつけ連携手帳」アプリが必須となります。電子版お薬手帳の役割にもなりますが、これまでのお薬手帳も当然使用できます。

このアプリケーションでは、これら以外の情報として、対応訪問看護ステーションからの在宅看護・介護のデータ、ご自身の健康情報・運動情報等も保存できます。ご自身の、医療、介護、健康情報がまとめて保存できますので、スマートフォンを医療機関、訪問看護師、薬剤師、栄養士等へ見せることで、これまでの状態を説明することが少なく、より正確に情報を共有することが可能となります。

処方箋につく「QRコード」と「かかりつけ連携手帳」アプリケーションについての詳細は、院内掲示や外来診療科窓口を用意してあるパンフレットをご覧ください。



★「かかりつけ連携手帳」は、個人の持つスマートフォンに、無料でダウンロードできるソフトです。

★この機能を使うには、スマートフォンが必要です。
iPhoneは、App Storeから
Androidは、Google Playから

かかりつけ連携手帳アプリで医療情報を患者の手に
生まれた時から現在までの一生涯の医療データをスムーズに管理し活用しよう。
<https://phr-project.jp/>

App Store からダウンロード
Google Play で手に入れよう
iPhoneとAndroidでご利用いただけます。

【問い合わせ先】
医療情報室 055-273-1111 (内線 2086)

山梨大学医学部附属病院における院内警察について

医事課警備担当 渡邊 光長、野澤 稔、望月 久雄

本院では、平成21年から警察OBが医事課職員として採用され、院内を監視するシステムを立ち上げ、現在では院内警察(警備担当)として3名が配置されています。

院内警察における主な業務には、次のものがあります。① 病院内外の巡回、② 遺失物・拾得物等の取り扱い、③ 診療科、病棟等への案内、④ 迷子・迷い人等の対応、⑤ 病院敷地内で発生する事件等への対応、⑥ 院内駐車場及び敷地内道路で発生する交通事故等への対応、⑦ 夜間・休日等における事案発生時の呼び出しへの対応、⑧ いたずら電話への対応などです。

主な業務のうち、①から④については、通常業務内において常時対応しており、今回は⑤から⑧の業務について具体的に説明します。

【⑤ 病院敷地内で発生する事件等への対応】

病院敷地内では、これまで何件かの窃盗事件が発生していますが、最近の取扱い事案として、平成29年の4月から6月にかけて発生した「病室内に侵入しテレビカードを窃取した事件」を紹介します。

4月中旬頃から西病棟の4階及び6階で、病室からテレビカード(未使用時2,000円)の窃取が数件発生しました。報告を受けた警備担当者は、入院患者さんや付添いの家族さんから詳細に事情を伺い、間違いなく窃盗事件であると判断し、地元警察に通報するとともに未然防止・検挙を目的とした病棟内の巡回・張り込み等を行うこととしました。院内の防犯カメラを精査したところ、被疑者らしき人物を特定することができたため、同人の情報を病棟看護師長に周知し、当該人物が来た場合は通報するように協力を求めました。

6月に入ったある日、病棟看護師長から「被疑者が病室内から出てきました。まだ、近くにいると思います。」との通報を受けて周辺を捜索したところ、速やかに発見し、同行を求めるとともに警察へ通報しました。警備担当者の状況説明や警察官の追及に同人は素直に犯行を認め、窃盗の現行犯人として逮捕され、4月以降病院内で発生したテレビカード盗難事件の全てを自供しました。

【⑥ 院内駐車場及び敷地内道路で発生する交通事故等への対応】

本院は、敷地内に560台が駐車可能な立体駐車場等、合計で1,000台以上の大規模駐車スペースを擁していることもあり、月に数件の交通事故が発生して

います。事故発生の通報を受けると、警備担当者は即座に臨場し怪我人の有無等を確認するとともに、警察に通報し臨場要請をします。また、現場の通行が困難な時には一時的に現場保存と交通整理を行い来院者等の安全確保を実施しています。

【⑦ 夜間・休日等における事案発生時の呼び出しへの対応】

通常の勤務時間帯は、警備担当者が院内にいるため問題はありませんが、夜間や休日は不在となります。しかし、当番担当者が24時間緊急連絡用の携帯電話を持っており、呼び出しがあった際には、当番担当者からの指示で他の2名も即時に病院へ駆けつける体制になっています。要請を受ける事案のほとんどは、時間外診察時に騒ぎを起こす、また医師や看護師を恫喝するものが多く、対応した医師や看護師が恐怖を感じる場合です。その対象者の多くは、飲酒した状態で騒いでいる者、薬物中毒で騒いでいる者であり、まさに職員に身の危険が迫っていることが多いため、呼び出し要請を受けた際に「身に危険を感じる場合は警察へも通報してください。」と指導しています。

【⑧ いたずら電話への対応】

病院に対するいたずら電話は、診療業務に支障をきたす非常に迷惑な行為です。いたずら電話があった場合は、連携を図っている地元警察に通報し、いたずら電話の番号を告知し対処してもらっています。

これまで本院の院内警察(警備担当者)の業務や取扱い事項を紹介してきましたが、私達はこれからも警察での勤務経験を生かし、また、地元警察と更なる連携を図り、院内で発生する事件事故を早期に解決し、患者さんを始めとする来院者はもとより病院職員の安全確保に努めていく所存です。



左から、野澤さん、渡邊さん、望月さん

今後の病院再整備スケジュールについて

事業名	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
新病棟Ⅱ期棟増築			→				
中央診療棟改修	←			→			
新病棟Ⅲ期棟増築			←	→	→		
食堂・売店棟増築			←	→	→		
外来診療棟改修				←	→	→	→

現在、令和2年開院に向けて新病棟Ⅱ期棟建設工事を行っています。本年度からは中央診療棟・特殊診療棟改修工事に着手します。新病棟Ⅱ期棟が開院後も新病棟Ⅲ期棟建設、外来診療棟改修工事を予定しています。

病院再整備中は、エレベーターの利用停止、通行制限、診療スペースの移転など、患者さんをはじめ関係各位にはご不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

就任あいさつ

救急部長

森口 武史



4月1日より救急部長に就任しました森口です。今回このような大役を仰せつかり、責任の重大さに身の引き締まる思いです。私が医師になった平成9年からこの令和の新時代、山梨大学に赴任して14年余りまで、おもに私は重症患者の診療、多臓器不全等を専門とし、それを診療の中心としてまいりました。一方で本院は8年前より地域の2次救急、救急車で来院される患者さんの診療において主要となる輪番病院の責を負っております。そのため現在は専門である重症患者の診療に加え、2次救急当番日における診療面での統括も私の重要な業務となっております。ご存知のとおり山梨県の初期診療事情、時間外診療体制は悪化の一途を辿っており、大学病院もこの2次救急の責務に加え、自家用車などで来院される1次救急患者への対応も求められております。この変化しつつある医療環境の中、大学病院が果たすべき役割、大きくなりつつある地域医療の維持に求められる貢献をきちんと果たし、安全安心な医療を地域の方に提供できるように努力する所存です。

副医療の質・安全管理部長

荒神 裕之



4月1日より副医療の質・安全管理部長に就任しました荒神です。本院は、山梨県内唯一の特定機能病院です。特定機能病院とは、高度の医療の提供・開発・研修を実施する能力等を備えた病院であり、主に大学病院など全国で86病院のみが指定されています*1。高度の医療では、高いリスク管理が必要であり、安全で安心な医療の提供のため、高度な医療安全管理体制が必須です。そこで医療安全担当副院長が責任者となり、医師、看護師、薬剤師の専従スタッフを配置し、定期外部監査を受審するなど、一般病院とは異なる多くの要件・審査をクリアしています。本年4月より、木内副院長が部長に就任し、専従医師の私と、看護師3名、薬剤師1名のスタッフが、本院の医療の質と安全の維持・向上のため日々奮闘しています。医療には、不確実なことや限界があります*2。安全で安心な医療を実現するため、患者さんやご家族の皆様にも是非、「名前を名乗る」「治療歴や内服薬を伝える」「疑問は尋ねる」等へのご協力、よろしくお願いいたします。

【*1厚生労働省 HP, *2 ささえあい医療人権センター COML HP】

放射線部診療放射線技師長

佐野 尚樹



4月1日より放射線部技師長に就任しました佐野です。放射線部は附属病院における放射線診療を統括している中央診療部であり、診療目的により診断部門と治療部門で分かれています。診断部門にはCT検査、MRI検査、RI検査、アンギオ検査、一般撮影検査、OP室検査があり、各診療科からの様々な検査依頼に対応できるように多種多様な画像診断装置が設置されています。また、X線透視やCT誘導下に血管内カテーテルや針を操作しながら治療を行う画像下治療(IVR)も実施されており、外科手術に比べ低侵襲な治療が可能となっています。治療部門では、がん治療を主な目的とした3台の放射線治療装置が設置されています。これらの装置はCT画像をもとに照射位置や体内線量を調整することができ、ピンポイント照射と言われる高精度放射線治療が可能となっています。放射線診療技術は日進月歩です。我々放射線部スタッフもその波に乗り遅れることなく、患者さんに安全で安心な最良の医療提供ができるよう、スタッフ一同が一丸となって日々精進をしていく所存です。

看護部長

古屋 塩美

4月1日より看護部長に就任しました古屋です。元号が「平成」から「令和」に変わった今年度は、本院の看護部にとっても変化の年になります。4月から私が看護部長を拝命したのと同時に、新たに1名の副看護部長が任命され、他の3名の副看護部長とともに、その責任の重さを感じながら日々の業務を行っています。

改めて本院の看護部が大切にしてきた看護を考えると、そこにはいつもウィーデンバック*1の「看護の基本となるもの」がありました。その核となる言葉が「need for help = 援助へのニード」です。私たちが提供している看護が、患者さんや家族が求めている援助であるかということが大切なのです。私はこのような看護を提供するためには「心」が大切だと考えています。患者さんや家族と「心」を通わせること、スタッフ同士が「心」を通わせ、お互いを思いやることが、より良い看護につながると考えます。そのためにも、看護師自身が自律していなければならないとも思います。看護の方向性に迷ったり、見失いかけた時「今、提供しようとしている看護は、患者さんと心が通っているだろうか」と、自分自身で考えることで方向性が見えてくるのではないかと思います。

社会情勢が目まぐるしく変化する中、働き方も変化し多種多様となっています。その中で自分たちが目指す看護の実現に向けて、看護部の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。そしてその看護を実現するためには、病院全体との協力が欠かせないと考えます。病院全体が一つのチームとして、患者さんにより良い医療・看護が提供できるようにと考えています。

【*1アーネスティン・ウィーデンバックは、アメリカ合衆国の看護学者】



1列目左から、小泉副看護部長、古屋看護部長
2列目左から、大門副看護部長、杉山副看護部長、村松副看護部長